



# 那須与一伝承館通信〈第25回〉

## ○豊臣秀吉朱印状

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から豊臣秀吉朱印状を紹介いたします。

本品は、天正十五年（一五八七）に書かれたものと推定される、豊臣秀吉（一五三七〜九八）が那須資晴に宛てた書状です。

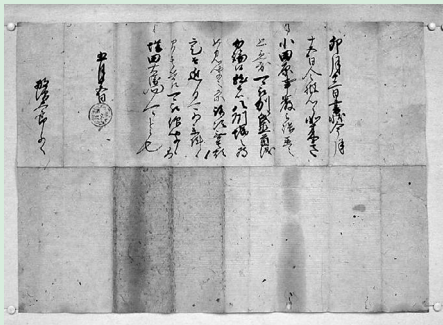
内容は以下のとおりです。「卯月（四月）十二日の書状を今月十五日に拝見しました。手紙の趣旨のとおり「小田原のことを厳しく「詰置」いた（取り囲んだ）上は、必ず「氏直」の首を刎ねるつもりです。そうであるならば、「八州」の「城々」は「見聞」のとおりである（落城している）ので、「路次」にその煩いはありません。必ず近々参陣するように。なお委細は増田長盛（一五四五〜一六一五）が申し上げます、と記されています。

つまり小田原城（現在の神奈川県小田原市）を包囲した秀吉が、資晴に対して、必ず北条氏直（一五六二〜九一）の首を刎ねるとの決意を述べ、自軍への参陣を促していたことがわかります。しかしながら資晴は参陣せず、その結果、秀吉から所領を没収され、佐良土館（現在の大田原市佐良

土）に蟄居することとなりました。現在、本品を展示しております。ぜひこの機会にご覧ください。

## ○豊臣秀吉朱印状

卯月十二日書状今月十五日令披見候、如來意小田原事嚴被詰置之上、急度可被刎氏直首儀勿論候、然者八州城々爲如見聞之條、路次無其煩候、定而近日可爲参陣候間、其節可被仰聞候、尚増田右衛門尉可申候也、  
（長盛）  
 天正十五年  
 五月十五日  
 豊臣秀吉  
 印  
 那須太郎とのへ



豊臣秀吉朱印状  
 （那須家所蔵・当館寄託）

## ■問い合わせ

那須与一伝承館  
 TEL (20) 0220

# 彫刻

## 市内で作られた作品とその作者

# 周遊 51

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品はふれあいの丘入口の十字路から見て、福原小学校の400m程先にある休憩所に設置してあります。

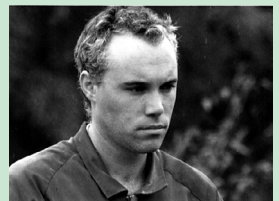


船のような流線型の両端を切り取ったような形の枠の中に、多面体が5つはまっています。多面体の側面は平らに彫られていますが、表と裏の中心はそれぞれ凹凸を付けた仕上がりになっています。枠もまた、凸凹を付け、柔らかな印象を与えるように仕上げられています。

## Navigator (航海者)

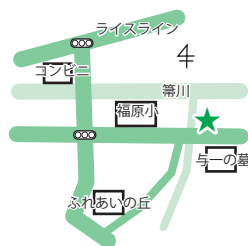
ジェシー サリスベリー  
 Jesse Salisbury アメリカ 2004年

彫刻の作者は、自らを「案内人」とよんでいます。これは、彼が「石を彫り進む作業は、一つの石の無限に広がる可能性を行く旅」であると考え、ジェシー サリスベリー 氏 ていることに由来します。石は自らの有り様を自分で変えることができませんので、彼のような「案内人」がつくことによって、石自らが望む形をとるための旅をする旅人になることができます。だから作者は、旅を終えた（望んだ形になった）石を航海者と名付けました。



作者はアメリカ出身のジェシー・サリスベリー氏。コルビー大学を卒業後、個展やグループ展を経て、宮崎空港現代彫刻展やニュージーランドのテ・クペンガ国際石彫シンポジウムなどに参加しました。

## 設置場所案内図(★印)



## ■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718